

エキスパートから学ぶ、 網膜硝子体疾患 の画像診断、治療

ランチョン セミナー 5

第5会場 東京国際フォーラム ホール B5(2)
2024.4.18 (木) 12:40-13:40

本総会のランチョンセミナーは整理券制です。
配布場所：東京国際フォーラム東京国際フォーラム地下1Fロビーギャラリー
配布日時：4月18日(木) 7:45～12:10

※セッションスタートと同時に整理券は無効となります。
※整理券配布は、開催当日のセミナーのみです。



座長のことば

座長 飯田 知弘 先生 (東京女子医科大学)

近年のテクノロジーの進歩に伴う医療機器開発や基礎研究からの臨床へのフィードバック、さらには技術・手技の進歩により、網膜硝子体疾患の病態理解・診断と治療（レーザー、薬物、手術）が車の両輪として著しく進歩して、患者さんの視力転帰が大きく改善されてきています。本セミナーでは、その中でも多くの先生の日常診療に直結する画像診断、レーザー治療にフォーカスして、3人のエキスパートの先生にご講演頂きます。まず佐藤先生に、診断と治療の効果判定で multi-modal imaging として使用されている DRI OCT Triton をクリニックでどのようにフル活用しているのか、日頃の診療に役立つ情報をご講演頂きます。続いて、稲垣先生に、低侵襲レーザー治療（マイクロパルス閾値下凝固）の奏功機序と臨床応用について治療成績を示しながらお話頂きます。最後に、野口先生には硝子体手術中の視認性とレーザー治療について最新知見をお話頂きます。本セミナーがご参加の先生方の明日からの日常診療の一助となれば幸いです。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

演者



佐藤 拓 先生

高崎佐藤眼科

クリニックにおける
DRI OCT Triton フル活用



稲垣 圭司 先生

イナガキ眼科 / 順天堂大学病院

網膜硝子体疾患に対する
マイクロパルス閾値下レーザー



野口 三太郎 先生

ASUCA アイクリニック仙台マークワン
/ ツカザキ病院

最上級の視認性を
獲得するために

飯田 知弘 先生 (東京女子医科大学)

1985年 新潟大学医学部 卒業
 1998年 群馬大学医学部眼科 講師
 2000年 Manhattan Eye, Ear & Throat Hospital 留学

2001年 群馬大学医学部眼科 助教授
 2003年 福島県立医科大学医学部眼科 教授
 2012年 東京女子医科大学医学部眼科 教授
 現在に至る



佐藤 拓 先生 (高崎佐藤眼科)

1996年 群馬大学医学部卒業
 1996年 群馬大学眼科 研修医
 1997年 公立富岡総合病院眼科医師
 1998年 群馬大学眼科 医員
 2000年 群馬大学眼科 助教

2008年 群馬大学眼科 講師
 2012年 VRMNY (Vitreous Retina Macula Consultants of New York) 留学
 2013年 群馬大学眼科 講師復職
 2016年 高崎佐藤眼科 院長
 現在に至る

クリニックにおける DRI OCT Triton フル活用

網膜疾患において、OCTの広角化やデノイズ機能など可視化性能の向上、OCT (OCTA含む) 機能の充実が図られており、病状の診断、治療の効果判定で multi-modal imaging として使用している DRI OCT Triton をどのようにクリニックでフル活用しているのかを自験例を示しながらご紹介します。



稲垣 圭司 先生 (イナガキ眼科 / 順天堂大学病院)

2005年 順天堂大学医学部医学科 卒業
 2008年 聖路加国際病院 眼科 後期研修医
 2009年 順天堂大学医学部附属浦安病院 眼科 専攻生
 2012年 聖路加国際病院 眼科 フェロー
 順天堂大学大学院医学部医学研究科眼科学 入学

2015年 聖路加国際病院 眼科 医員 / 聖路加国際大学 臨床助教
 2016年 医学博士取得
 2017年 Medical Laser Center Luebeck 客員研究員
 2019年 聖路加国際病院 眼科 副院長
 2020年 イナガキ眼科 院長
 2021年 医療法人社団 司誠会 理事長 兼任
 2022年 順天堂大学病院 眼科 非常勤講師
 現在に至る

網膜硝子体疾患に対するマイクロパルス閾値下レーザー

黄斑浮腫に対するマイクロパルス閾値下レーザーの作用機序と適応疾患 (DME, BRVO, CSC など) に対する治療方法を、既報告や症例提示をして照射条件や範囲について解説します。



野口 三太郎 先生 (ASUCA アイクリニック仙台マークワン / ツカザキ病院)

2006年 東北大学医学部卒業
 2006年 いわき市立磐城共立病院
 2008年 東北大学病院眼科
 2010年 石巻赤十字病院

2014年 特定医療法人 三栄会 ツカザキ病院
 2021年 大阪大学大学院博士課程修了
 2022年 ASUCA アイクリニック仙台マークワン 主任執刀医
 現在に至る

最上級の視認性を獲得するために

手術で良いパフォーマンスで行うには何が一番大事であるか。それは、視認性である。視認性が不良である場合、手術が何となく施行しにくい、結果が悪いということに繋がりがやすい。では、最も良く見える環境を作るためにはどうすれば良いか。今回はレーザーフィルターと硝子体手術における、眼内レーザーの選択について徹底的に科学的に考えてみたいと思う。